



中長期を見据えた発信

住友化学会長

岩田圭一

いわた けいち

中 東情勢の緊迫化など国際情勢はかつてないほど混乱の度合いを深めている。一方で、エネルギーや資源を海外に依存しているわが国は、不確実性や有事に対して極めて脆弱な立ち位置となる。そのような中、わが国が国際的プレゼンスを維持していくには、短期的な対応とともに、中長期の視点が重要である。「FUTURE DESIGN 2040」の科学技術立国と貿易投資立国を指針として、絶え間ない技術革新を進め、経済安全保障上の戦略的不可欠性と自律性を確保していくうえで、企業、特に製造業の役割と責任は重い。

この重大な局面で副会長を仰せつかり、日本・韓国経済委員会、バイオエコノミー委員会に加え、新たに環境委員会の委員長も拝命し、身の引き締まる思いである。

多くの取り組みべき課題の中でも、とりわけ注力すべきはGXの推進である。これは単なる気候変動問題への対応にとどまらない。国内のGX関連投資を通じて、わが国の産業競争力・科学技術力を強化し日本の成長力を取り戻す好機でもある。また、直面しているエネルギーや資源の確保といった経済安全保障上の課題克服にも資する。

GXの推進は、官民一体となった総力戦であり、中長期の視点からの息の長い取り組みが必要である。革新的技術の開発とその社会実装の実行の中心はもちろん企業であるが、政府は予見可能性を確保する制度設計などにより、企業の積極的な投資を促す役割がある。同時に、GXの成果として創出される環境価値を明らかにし、新たな市場を創出していくためには、官民の密接な連携が必須である。

さらには、このような日本の技術や社会実装・市場創出の経験知は、グローバルサウスへの展開など経済外交へ展開できる可能性がある。あわせて、サーキュラーエコノミー、バイオものづくりといった取り組みはサプライチェーンの強靱化の意味を含めGXの外縁として重要性を増している。

GXの推進は一例ではあるが、直面する課題の多くには、中長期視点の取り組みが欠かせない。中長期を見据えた発信ができるのも経団連の強みの一つであり、副会長として、そのような活動に微力を尽くしたい。会員の皆さまのご指導とご支援をお願いする。